

ご来館の記念にお寄せいただいたご感想

2022年（令和4年）11月～2023年（令和5年）10月までを抜粋



- 先々週末、三井寺で紅葉を楽しんだあと、現在学びを進めているグリーンケアの授業で「三橋節子」さんとその絵に出逢いました。導かれるように、ここへ来ました。
くさまお君となずなちゃんは、私と同年代くらいの方だとわかり、節子さんの想いはわが母と重なりました。野草を愛された節子さんのやわらかさ、やさしさがとても印象に残りました。(K. I)
- かねてからの念願の来館を果たせました。3つの感動を受けました。
 - ・ 節子さんの生き様
 - ・ 夫やご家族の深い深い愛情
 - ・ 節子さんの奥深い愛に溢れる作品群

私も 74 才ですが、せめて残りの人生を節子さんにならって、精一杯生きようと思います。
ありがとう節子さん。みなさん。(Y.S)

- 日赤病院に妹を見舞った帰り、三橋節子美術館の看板に目が行き、そのまま長等の山を上り、下り、たどりつきました。
ただただ懐かしく、節子さんの絵が今もそのまま在ることに。深くなくさめられました。
初めて節子さんの名を知ったのは 48 年前、そして何度も遺作を拝見し、ご本を読む機会を与えられ、大きな励ましを得てきました。
節子さん、くさまお君やなずなちゃんと同じように、私の二人の子どもも親となりました。
感謝です。(S.K)
- 大津に何度か訪れる中、「三橋節子美術館」をぜひとも訪れたいと思う中、今日という日に、出会ったのだなあと、一期一会の今日に感謝です。
心にせまってくるせつなさや美しさ…。野に咲く草花が好きで、今日は、れんぎょう、椿、そして、冬の比叡山を目にしながらか、「命」「自然」を、深く感じさせられ、心に沁みます。
また観に来ます。(N)
- 大津日赤受診後、時間があつたので来ました。私も五月に手術を控え、何かと心揺れる毎日ですが、三橋節子さんの病のたたかい、右腕切断 1 ヶ月後には左手で描きはじめられた情熱に元気もらえました。幼い子どもたちをおいて、先立たなければならぬ状況をきちんとみつめて生きられたのですね。何時間でも過ごせる美術館、また来たいと思います。(T.O)
- 「花折峠」は、この世のものとは思えない高貴な光に満ちた画面で、野の花たちの小さな声が歌が聞こえてきそうな気がしてきます。
流される娘の表情の穏やかさ、手のポーズなど、着衣した生身の仏像のような美しさがあると感じました。
ひとつひとつの花にはわずかな力しかないけれど、皆で力合わせれば人を救う力になる…という伝説に希望を見つけようとした…そんな想いが伝わってきます。(Y.O)
- 美術館に来るのは 3 回目だと思います。いつも何かの折にご縁を感じて来館します。
転勤で九州に住んでいた時もたまたま TV で見ました。今回は知人の紹介で知り合った方が吾木香の本に文章を記されているとのことで来館しました。
私も骨に腫瘍ができていたことが判明したので、今までとは違う気持ちで観覧することになりました。初めて見た時は暗い絵だなと思いましたし、病や死などを思わせますが、改めて見ると愛情や生命をたくさん感じることになりました。野草と合わせた展示がまた良かったです。
- 昨日たまたまこの美術館のことを知り、三橋節子さんというお名前も存じませんでした。何となく訪問させて頂きました。展示物を拝見している間ずっとふるえが止まりませんでした。梅原先生のおっしゃる通り、これは人生における「出会い」であると感じました。亡くなられて 50 年経とうとする方とこの令和 5 年になって出会えたことに感謝したいと思いました。(T.S)

- R5年5月に来館し、魂がゆさぶられる思いでした。
そしてR5年7月に主人をつれて宮崎より来館しました。どうしても主人にみせたかったのです。同じ母としての気持ち、植物や虫たちへの愛、全てを愛すること、不思議ですが、私と同じ心のもちぬしだどつくづく感じました。節子様 お空の上で皆を癒しておられることでしょう。
(Y.S)
- ある方に「湖の伝説」の本を見せていただいていたいへん感動し、一度訪ねて見たいと思っていました。絵がこんなにも、人間の命やドラマを語り描かれているとは知りませんでした。この日本画の色彩の深さに感動です。実際の絵をこの美術館で見ることができて感激です。さらに関連の書物などで知りたいです。湖の伝説なども訪ねてみたいです。「一本の腕へ命へ絵が迫る」(T.K)
- 短歌でご一緒の友人に誘っていただき、あわてて図書館で絵本や画集、梅原氏の著書など借りて来て、昨夜ずっと読みふけりました。そして、今日、本物の三橋節子さんのお作品の数々をこの目で見る事ができて心がふるえる思いでいます。二人の子どもさんへのはがきは涙で字がちゃんと読めませんでした。今夜、家に帰って、借りてきた画集や絵本をじっくり読みたいです。出会えたことに心から感謝です。(Y.F)
- 15年ぶりに来訪しました。大切な友人と共に過ごした時間を思い出し、なつかしさをいっぱいになりました。(よくここを案内したんです)
本日初めて高校時代からの旧友と来ることができ、感動を共有でき、感謝の思いでいっぱいです。
三橋節子さんから、あたり前の日々こそが奇跡であること、命の力強さ、温かさを受け取りました。大切に持って帰ります。ここはとても大切な場所です。また来ます。今度も大切な人と…。
(N.M)
- 二度目です。ちょうど今子供が5才と2才、かわいい盛りの子供達と離れるつらさを想像すると、胸が苦しくなりましたが、今生きている自分、今の感じることを表現されていて、母の強さを感じました。子供を残していくことの辛さ、夫を残していくことの辛さ、夫を愛しているからこそ、子供を残していく伝説の天女や物語の母親、そこにも深い愛を感じました。母子像がとても心に残りました。これでよかったです。ありがとうございます。(T.S)
- 初めて節子さんの絵を見たのは私が小学生の頃、今からもう40年以上昔になります。鬼子母神の絵が京都新聞に掲載されていて、絵のことは何もわからない子供だったのに、深く印象に残っていました。32歳の時、2人目の子がお腹の中にいる時に、ようやくここへきて原画にお目にかかれました。それから20年以上たち、下の子も大学生になって家を出て行き、私の子育ても一段落しました。上の子は府立病院に就職し、勝手乍らご縁を感じております。今回で5回目の訪問になります。花折峠の絵が一番好きです。来れる限り、何度でも伺いたいと思います。(M.I)
- 何度も本を読み、いつも関心をもっていました。駅からの道すがら、文章も思い浮かべていました。このあたりで住んでおられたのだなあーと。絵を見せていただき、生きる、ことにもう

一度よく考えてみたい、と思わずにいられませんでした。残された人生を大切に、と思わずにはおれませんでした。また、節子さんの絵にお会いしたく思います。(K)

- 家から5分以内なので絵が好きなので気軽に来ました。だけど不覚にも、いや当然の如く泣かされました。ご主人が描いたデスマスクは刺さりました。人を愛することは尊いですね。「紫がかった群青」は心に残ります。そんな長等に住めて良かったです。今週、神戸に引っ越します。来て良かったです。(O)

令和5年10月分まで